

Hôpital de la Salpêtrière



Hôpital de la Salpêtrière (サルベトリエール病院)は Université Paris Descartes (パリ第5大学)から東南東に30分ほど歩いた所にある、パリの総合病院であり、最近ではイギリスのダイアナ妃が搬送された病院としても知られています。そして我々神経学を学ぶものにとっては、あの Jean-Martin Charcot が活躍した聖地です。

元は16世紀に建てられた兵器庫だったそうですが、17世紀に公立病院になり、その後時代の変遷とともに、保護施設や強制収容所としても使われていました。その広大な敷地の数多くの建物の中に、5000人とも言われる、寄る辺のない「よくわからない病気」の人々を収容していた施設です。Charcotはインターン時代に訪れたのち、1862年に神経学の教授としてここに赴任しました。そして、その混沌の世界を宝の山に変えたのです。

Salpêtrièreは当時のパリの中心街からは外れた、Gilles de la Touretteに言わせれば「人間の病気が寄り集まった地獄」であり、若い医師たちにとって研修先として忌避される病院でした。そのような病院に赴任したCharcotは、精力的に施設内をくまなく歩き回り、すべての患者を診察し、膨大なデータベースを構築しました。それらは後に、剖検所見と病理組織学的な資料で補足されました。そしてCharcotはその成果

を入念に準備した臨床講義という形で聴講生に提供しました。こうした根気のいる地道な努力が「Salpêtrière」の名を世界に知らしめることになったのです。

男児立志出郷関
学若無成死不還
埋骨豈惟墳墓地
人間到处有青山 (月性上人)

かつて大学の若い医局員は教授命令で数年毎に様々な病院に派遣されていました。中には意に沿わない病院もありました。でも、それぞれの場所、それぞれの立場で、頑張ってみると外からでは何えなかった様々な価値が見えてきます。それぞれの経験の一つ一つが医師として、人間として成長する糧になります。

新臨床研修制度ができ、研修医たちは医局に束縛されることなく、自由に研修病院を選べるようになりました。しかし研修医が入手できる選択のための情報は、ネットや先輩の意見など限られています。研修先によって内容に差があることは否定しません。でも、どの病院に赴任しても、そこでしか体験できない望外の感動や別世界との邂逅があることを忘れないでいただきたいと思います。